QUALITY ASSURANCE
JIC
REGISTERED
ORGANIZATION
No.0430-ISO9001
ISO9001認証取得

molten®

INNER FIRE

情熱とは、あなた自身の内なる炎。
一途にトレーニングに励むときも、
戦いに敗けても挫けず
何度も果敢に挑戦し続けるときも、
熱く、まばゆく燃え続ける。
熾烈な戦いのなかで、
すべての敵を焼き尽くしてしまうまで。



■ 日本リーグ唯一の公式試合球
■ 全日本実業団連盟主催大会唯一の公式試合球

32H312Y ヌエバ ¥6,825(本体価格¥6,500)
国際公認球・検定球・縫い・人工皮革・3号球
カラー（黄×黒）

32H212Y ヌエバ ¥6,615(本体価格¥6,300)
国際公認球・検定球・縫い・人工皮革・2号球
カラー（黄×黒）
(標記の価格はメーカー希望小売価格)

株式会社 モルテン　東京本社 〒130-0003 東京都墨田区横川五丁目5-7　大阪・名古屋・福岡・広島四国・仙台・札幌・モルテンUSA・モルテンヨーロッパ・モルテンタイランド・モルテンメキシコ　www.molten.co.jp

スポーツ振興基本計画からハンドボールを考える



(財) 日本ハンドボール協会常務理事　村松　誠

現在のスポーツに関する基本的な考え方として、スポーツ振興基本計画が大きな影響力を持っていることは紛れも無いことだと思います。ここではスポーツイコールハンドボールとして考えることが出来ると考えています。

このスポーツ基本計画の根拠は、スポーツ振興法に求めることが出来、これは昭和39年の東京オリンピックに遡ることが出来ます。現在のスポーツ振興基本計画は、社会状況、世界的なスポーツ界の変化を踏まえつつ、平成11年に保健体育審議会から「スポーツ振興基本計画のあり方について」という答申に基づいています。

この中で、総論、また計画のねらいとして、「人生をより豊かにし、充実したものとする」、「明るく豊かで活力に満ちた社会の形成や個々人の心身の健全な発達に必要不可欠なもの」と位置付け、「21世紀における明るく豊かで活力ある社会の実現を目指す」としています。これらのことを実現するため、具体的な課題として３項目を挙げています。

これらの「人生をより豊かに充実し、明るく活力に満ちた社会に実現」を我がハンドボールに振り返ってみれば、「いつでも、どこでも、だれでも、自分にあったやり方」でのハンドボールが存在することが大切であると思えます。これはだれでもハンドボールに親しめるという環境が存在するということで、例えば障害者でもハンドボールが楽しめ、年齢を重ねてもマスターズハンドボールで楽しめ、才能のあるハンドボールプレーヤーが世界のトップも目指せるハンドボール環境があることだと考えています。

日本ハンドボール協会のプロジェクト21は、これらを達成するための考え方を示しているものです。ハンドボール先進国であるデンマークやドイツでのハンドボール競技者登録人口のその国の総人口比率を見てみれば、デンマークで2.5％、ドイツで１％です。デンマークでは、人が100人居れば２人はハンドボール選手がいるということで、ドイツでは１人はハンドボール選手であるということです。日本では0.06％であり、2000人居てやっと一人のハンドボール選手を見つけるかということになります。その普及度の違いにハンドボールに関する関心度に違いを見ます。例えばデンマークではテレビ放映に関して、ハンドボールの放映時間の多さに批判が出ているほどです。さらに、少子化を克服したデンマークでは、少子化の中でもハンドボールの競技人口は増えているという事実は我々にも示唆を与えてくれると思います。

ハンドボールの発展がどのようなことか、どのように進めていくかは、ハンドボールに関わる人すべての問題であります。多くの議論がなされることが必要と考えていますし、機関誌はそのツールとして重要な位置付けがあるように思います。スポーツ振興基本計画だけでなく、色々な切り口のご意見が戴ければ更なる発展に繋がると思います。読者に終わることなくご意見を頂きたいと考えています。

第30回
日本ハンドボールリーグ
「ANA CUP」プレーオフ





男子：
大同特殊鋼、
9年ぶり10度目の優勝
女子：
オムロン、
8年ぶり11度目の優勝

超満員に沸きかえるスタンド
白熱の試合展開



日本ハンドボールリーグ機構委員長　川上　憲太
[(財) 日本ハンドボール協会常務理事]

今年度で第30回を迎えた日本ハンドボールリーグ、たくさんの諸先輩・関係の皆様、企業・スポンサー、そしてサポーターの皆様のご尽力・努力・協力・協賛・応援に改めて敬意と感謝を申し上げる次第であります。誠にありがとうございました。また、これからも宜しくお願い申し上げます。

さて、そのフィナーレを飾るプレーオフが3月18日（土）、19日（日）に東京・駒沢体育館で開催されました。

◆前売り券完売◆

プレーオフ史上初めての前売り券完売につづき、日本リーグホームページその他で大会の開催を知った人たちの問い合わせがリーグ事務局に殺到し、当日の入場制限の必要性も議論される程の前人気の盛り上がりに、運営側には緊張が走りました。

◆超満員!!◆

第一日目準決勝、好カードも影響してすでに駒沢体育館で開催された大会では最高の満席3300人を記録、翌日の決勝では全席びっしりの立ち見まで出る3600人を記録。会場は熱気でむせかえりました。試合毎の入替えを考えますと延べ観客動員は最高となりました。

◆プロの運営をめざす◆

日本リーグは今年度立ち上がった日本トップリーグ連携機構に加盟し、その活動の中から他のトップリーグの大会運営・観客動員他のたくさんの運営ノウハウを学びとり、いままでこつこつと積み上げてきた既存のノウハウと連動し、「真のプロの運営をめざす」を目標に、チーム・リーグ事務局・リーグ委員会そして日本協会の皆さまと一丸となって取り組んで参りました。

自立したチーム運営、企業チームとしてのチームの在り方、ファンサービス、観客動員、頂点強化等と課題は多種に及び、一つ一つに具体的行動が必要です。今回、先ず観客動員の点では効果が現われ始めました。試合運営の中でも観客を飽きさせない企画が随所に見られました。このノウハウを日本リーグレギュラーシーズンの各地での試合運営に波及させて行こうと考えています。

◆宮﨑大輔効果◆

2006年元旦にTBSテレビでのスポーツマン番組で宮﨑大



輔選手がチャンピオンになり、たいへん注目を集めました。テレビの前に釘付けの方が多かったのではないでしょうか。これによりハンドボールと関係のない老若男女がハンドボールに大変興味を持ち、今回の観客動員の結果になったと考えます。また、この時期を的確にとらえ「宮崎選手の露出」「ハンドボールの露出」の為、マスコミ対策・ファン対策をとった田中GM始め日本リーグ・日本協会のスタッフの皆様方のすばやい行動力がこの成果につながったと確信しています。今後もこの努力を忘れないよう頑張りましょう。

◆たくさんのご来賓◆

今回も高松宮妃久子殿下には男・女の決勝戦をご覧いただき、賞讃のお言葉を賜りました。誠に有難うございました。

また、安西孝之日本体育協会名誉会長ご夫婦を始めアニマル浜口氏（アテネオリンピックレスリングコーチ）、そのまんま東氏にはたくさんの声援が飛んでいました。全日本空輸株式会社、アシックス株式会社、株式会社モルテンを始め多くの協賛企業の皆様にも激しいゲームをご堪能頂きました。





◆歴史が少しずつ変化する熱い戦い◆

コート上に目を向けますと、女子ではオムロンチームが8年ぶり11度目の悲願の優勝をとげ、女王・広島メイプルレッズの8連覇を阻みました。

男子は新監督のもとにまとまりを見せた大同特殊鋼チームがスタープレーヤー揃いの大崎電気チームを完璧におさえての優勝が際立ちました。

◆今年も外国人レフェリー招待◆



今年はセルビア・モンテネグロの女性レフェリーペアーを招待し、女子準決勝・男子決勝をお願いしました。

このペアーはヨーロッパでは主にオリンピック・WC・ヨーロッパ選手権 etc の男子のレフェリングをしているそうですが、評判どおりアイコンタクトを主に、試合の中に溶け込んで、その存在すら忘れさせる見事なレフェリングを見せて頂きました。

◆新しい日本ハンドボールリーグを目指して◆

プレーオフ終了後、全日空ホテルにて「第30回日本ハンドボールリーグ感謝の集い」を開催しました。徳永陸繁初代日本リーグ委員長をはじめたくさんの関係各位の出席を頂き、森喜朗（日本体育協会会長・日本トップリーグ連携機構会長）前首相のご挨拶を頂き、途中には男・女のドリームセブンの発表など、和やかなムードの中で歓談が行われました。

日本リーグは、現在たくさん課題があり、それに一つ一つこつこつと取り組んでいます。

今後もスピードと行動力を持って日々前進していかなければなりません。どうか皆様の今後のご協力・ご支援・ご鞭撻をお願い申し上げるとともに、「必ず北京オリンピックに出場する」目標を再確認してご報告に替えさせて頂きます。

試合結果

◆男子

【準決勝】

大同特殊鋼　31（17－12, 14－15）27　トヨタ紡織九州

（戦評）両チーム高いディフェンスを敷き得点ないままの3分、トヨタ紡織が呉相民のカットインから得た7mTにより先制する。大同もすかさず李、白の速攻で逆転、試合が動きはじめる。紡織がGK谷川の好守で粘るも、李、白、末松と連取し一気に引離しにかかる大同。紡織も朴、佐久間らで加点し5点差で追いすがる。

後半、呉の7mT、阪のミドルで詰寄る紡織。大同も末松、白で応戦する。12分、大同リードは5点あるものの、勢いのある紡織



相手にスキを見せるわけにはいかない。両チームGKの好守が続き5点差のまま残り10分の攻防へ。石黒、佐久間、村上の3連取で流れを呼寄せる紡織、山本のサイドシュート、武田、畠中の速攻で再びつきはなす大同。大同3点リードで向かえた大詰め、残り3分粘る紡織を白、末松が渾身のシュートで振り払い勝利した。

大崎電気　25（12 − 10, 13 − 12）22　湧永製薬



（戦評）注目の準決勝第二試合は、大崎の3連続得点で幕を開けた。多彩な得点源で仕掛ける大崎に対し、湧永は古家、小沢のミドルで対抗する。両チームのGKの堅守でロースコアの展開となる。大崎5番中川が力強いシュートを連発すると、湧永も9番小藪のカットイン、3番下川粘りのシュートで追走する。27分過ぎに湧永小沢の7mTで10 − 10の同点。即座に大崎も7番永島のポスト、19番猪妻が速攻でねじ込み、2点差で後半へ。

後半に入っても両チームとも一歩もゆずらない。激戦で両チーム熱くなり、10分過ぎには退場者が出はじめた。15分には大崎9番ベテラン森本がサイドシュートを連発。このあたりから、ほんのわずか大崎のペースで進む。残り5分で大崎3点リードと、一昨年の総合選手権における湧永奇跡の逆転を連想させる得点差。ここからは意地と意地、執念と執念のぶつかり合い、今回は大崎に軍配があがった。

【決勝】

大同特殊鋼　39（17 − 13, 22 − 22）35　大崎電気

（戦評）試合開始直後、4番末松、13番李、20番白でいきなり5連取の大同、対する大崎は15番東、2番豊田、8番岩本らで6連取してみせる。ゲームの行方は全く予想が出来ない展開となった。14分過ぎ、大同GK高木の気迫のセービングで11 − 8と、やや大同ペースになる。さらに末松の連取で、17 − 13の4点差大同リードで前半を終了した。

後半出だしも両者ゆずらぬ展開、大崎8番岩本がしぶとくミドルをねじ込めば、大同末松が本日8得点目を決める。22 − 17の5点差となり後のない大崎は、宮崎、中川らで得点ペースを上げ、12分過ぎ2点差に詰めよる。14分、大同20番白に宮崎がマンツーマンディフェンスにつくシーン、両チームのエース対決は会場を湧かせた。大崎19番猪妻の2連取と宮崎のミドルで18分、ついに28 − 28の同点となる。残り10分過ぎには、この試合好調の17番山本、13番李で離す大同、5番中川、気合の3発で追う大崎という展開。粘る大崎を大同20番白と13得点とな



る末松のシュートで抑え込んだ大同が昨年の雪辱をはたし、9年ぶり10回目の優勝を手にした。

◆女子

【準決勝】

広島メイプルレッズ　31（19 − 11, 12 − 17）28　ソニーセミコンダクタ九州

（戦評）女子準決勝は、試合開始から一進一退の展開となる。呉、林からのスピードあるパス回しで攻めるメイプル、飛田の好セーブでしのぐソニーと、出だし9分で5-5の同点、接戦のゲーム展開に会場も盛り上がる。ディフェンス・速攻にリズムの出てきたメイプルが徐々にリードする。16分、6点差つけられた時点でソニーがタイムアウト。田中をトップに上げて立て直しを図るも、メイプルGK高森がスーパーセーブを連発、前半はメイプル8点差リードで終了。



後半、粘るソニー、13分田中の速攻で4点差、更に金城の速攻で3点差一気にヒートアップしていく。試合の流れがどちらに向くか注目されたが、ここからはソニーのペース。金城のミドルで2点差に迫る。追い詰められたメイプルだったが、この試合、冴えわたる呉、林からポストをからめた攻めでしのぎきった。

【決勝】

オムロン　32（18 − 10, 14 − 16）26　広島メイプルレッズ

（戦評）女子決勝戦は、オムロン8番佐久川の速攻で先制。10番





呉のステップシュートで同点にするメイプル、オムロン18番東濱がロング、ミドルと決めれば、メイプルは8番菅野、10番呉、4番青戸で取返し、前半8分で4－4と序盤は一進一退の攻防が続く。許、洪、坂元の強力ディフェンスで、メイプルの攻めに好リズムを与えないオムロンは、前半13分メイプル7番林の退場を機に、流れを掴み始める。19分12－8、オムロン4番許、9番坂元退場で4人になるピンチもGK勝田の好セーブで踏ん張り、乗り切った。メイプルも13番杉本の連取で対抗するが、今日はオムロン18番東濱が冴えている。4点目、5点目をたたき込み、前半を18－10と大量リードで終える。

後半に入ってもオムロンのペースは乱れず、点差は縮まらない。必死に抵抗をみせるメイプルだが、オムロンは3番安心院からの精度の高いパス回しで加点、さらにGK勝田のスーパーセーブ連発で追従を許さず、8年ぶり11回目の女王の座についた。

PHOTO GALLERY



ハームタイムショー（藤村女子中高等学校）



ハームタイムショー（エイベックスダンスチーム：aaa all starz）



競技終了前の“ドーピング抽出”作業



高松宮妃久子殿下、渡邊会長はじめ表彰式のプレゼンターの皆様



胴上げされる大同特殊鋼の姜在源監督



大同特殊鋼の優勝を喜ぶ応援団



胴上げされるオムロンの黄慶泳監督





高松宮妃久子殿下から表彰を受ける（左：オムロン・佐久川選手、右：大同・白選手）



喜びに沸くオムロン応援団

第29回全国高校ハンドボール選抜大会

多くの観衆を集め、熱戦を展開

男子は藤代紫水高校、女子は高岡向陵高校が初優勝を飾る

東京都高体連ハンドボール専門委員長　大東 秀明（中央大学附属高校）



平成17年度第29回全国高校ハンドボール選抜大会が、ハンドボールのメッカとして知られる東京体育館、日本リーグプレーオフで大いに沸いた駒沢体育館ほか2会場で開催されました。

今大会は男女とも1回戦から後半戦の逆転劇や劇的な幕切れが多く、初日から大いに沸いた試合が繰り広げられました。

男　子

男子においては高得点で接戦の多いゲームが展開されました。ベスト8には関東勢が4チーム残り、東京大会を大いに盛り上げてくれました。

準決勝第1試合は、2回戦で第1シードの九州第1代表の大分国際情報高校に勝利して意気上がる北陸高校を接戦で制した九州第3代表沖縄の興南高校と、3回戦・準々決勝を接戦ではあるが順当に勝ち上がってきた関東第1代表の藤代紫水高校が対戦。前半から両チームの持ち味が存分に発揮され、一進一退の攻防が終盤まで繰り広げられました。後半23分に30－30の同点から、興南高校の2分間の退場をきっかけに、藤代紫水高校が2点差とし、そのまま逃げ切り、全国大会初の決勝へと駒を進めました。

準決勝第2試合は、初戦の北信越第1代表の氷見高校、準々決勝の九州第7代表の那覇西高校との接戦を制して勝ち上がってきた、関東第4代表の法政大学第二高校と、安定した守りと高い攻撃力で勝ち上がってきた東海第1代表の愛知高校が対戦。前半20分過ぎまで一進一退の攻防が展開されましたが、法政大学第二高校が23分から速攻で5連取し、前半を6点リードで終了しました。後半愛知高校も2点差まで猛追するも、21分と22分に立て続けに退場者を出し、法政大学第二高校が5点差で勝利し、こちらも選抜大会初の決勝へ駒を進めました。



決勝戦は平日にもかかわらず関東対決ということと、どちらが勝っても初優勝ということもあり、会場が応援団と観客でほぼ満席となる状況でした。前半は法政大学第二高校が粘り強い守りで藤代紫水高校の攻撃を凌ぎ、1点リードで終了。後半は着実に得点を重ねていく藤代紫水高校に対して、法政第二高校は速攻やポストのノーマークシュートを相手GKのファインセーブに阻まれるとともに、勝負どころでの退場者で思うように得点を重ねることができず、スピードとパワーあふれる攻撃とGKの堅守で、藤代紫水高校が初優勝を飾りました。

女　子

女子においては、残り数秒で勝敗が決するというスリリングな試合が多く、選手たちの最後まであきらめない姿に感動させられました。

準決勝第1試合は、安定した攻守で着実に勝ち上がってきた近畿第1代表の洛北高校と、こちらも安定した守りと後半一気にスパートする攻撃力で、着実に勝ち上がってきた夙川学院高校との関西対決となりました。前半立ち上がり洛北高校のロングシュートが決まると、夙川高校の守りを修正する間も与えない5連取で試合の主導権を握り、思いもよらない大差で前半を終了。後半夙川高校も相手の退場者が出る間に必死の反撃をするも前半の失点が大きくひびき、終始優位に試合運びをした洛北高校が決勝へと駒を進めました。

準決勝第2試合は、準々決勝で関東第1代表の昭和学院高校を後半残り3秒で決着がつく壮絶な戦いを制した北信越第1代表の高岡向陵高校と、2回戦で九州第1代表の大分鶴崎と壮絶な延長戦を制して勝ち上がってきた近畿第2代表の四天王寺高校が対戦。前半序盤、前日決勝点をあげた高岡向陵高校のエースの活躍で試合を優位に進めて前半終了。後半、四天王寺高校の必死の追い上げも前半の点差が重く、試合を通して終始リードを保った高岡向陵高校が全国大会初の



決勝に駒を進めました。

決勝戦は互いに攻守のバランスがとれたチームの戦いでしたが、前半序盤の高岡向陵高校、洛北高校の両エース対決が試合の展開を大きく左右した試合となりました。後半、洛北高校のエースのロングシュートで必死に追い上げるも、前半の失点が大きく響き、終始リードを守りきった高岡向陵高校が全国大会初優勝を飾りました。

大会総括・謝辞

今大会は男女とも初優勝という形で幕を閉じましたが、両チームと惜しくも敗退したチームの力に大きく差があるようには思いませんでした。それだけに8月のインターハイでは、今大会以上に拮抗した素晴らしい試合が見られることが予想されるとともに、そうであることを期待しています。

最後になりましたが、今大会は東京都心部の会場を使用するということで、参加チーム各位には、宿泊ならびに会場までの移動手段で大きなご負担とご不便をおかけし、大変申し訳なく思っております。今大会が無事終了できましたのも、参加チーム各位のご理解とご協力の賜と感謝申し上げます。また、遠方より会場に足を運び、大会を盛り上げてくださった応援団ならびに観客の皆様、そして何より日頃の練習の成果を遺憾なく発揮してくれました選手たちに心より感謝申し上げます。

試合結果

◆男子

【準決勝】

藤代紫水　34（16 － 15, 18 － 17）32　興南
（関東・茨城）　（九州・沖縄）

〔戦評〕興南がポストプレーで先制するも、紫水も14番信太のロングで取り返す。アグレッシブな攻防が続き、前半5分で紫水に3枚イエローカードが出る。対する興南も前半8分で3枚イエローカードが出て､退場が必至の状態となる。退場を出しながらも一進一退。興南の高めのプレスDFに体格で勝る紫水は強引な突破を試みるも、前半2点差以上になることはなく、16 － 15の紫水1点リードで折り返す。

後半も一進一退であったが、興南の2名退場を機に紫水が3点をリード。一時は4点差まで開くが、後半18分には紫水・3番小室の退場を機に興南が逆襲する。しかし、25分には逆に興南・13番名嘉の退場を機に再逆転。27分には2点差をつけた。紫水が興南の反撃を凌いで2点差でゲームセット。紫水1年生・14番信太が14得点の活躍を見せた。

法政二　30（17 － 11, 13 － 14）25　愛知
（関東・神奈川）　（東海・愛知）

〔戦評〕出だしから法政二のDFに愛知がはまり、前半10分で4点差まで開いたが、徐々にペースをつかんだ愛知が点差を縮め、前半18分には同点に追いつく。しかし、前半21分の退場を機に再び点差が開き、前半は17 － 11と法政二の6点リードで折り返す。前半終了直前の退場があり後半スタートから厳しい状況におかれた愛知だが、一人少ない状況をGK寺脇の好判断、好セーブで凌ぎ、逆に法政二の退場を機に2点差まで詰め寄る。後半10～20分はお互いのGKを中心としたDFの守り合い、どちらも譲らない状況が続いたが、後半21分からの2人続けての退場を機に法政二が5点差まで広げ、そのまま逃げ切った。

両チームとも随所に見られたポストプレーが光ったゲームであった。

【決勝】

藤代紫水　29（12 － 13, 17 － 9）22　法政二

〔戦評〕関東選抜大会の再戦となった決勝、会場の駒沢屋内球技場には平日にもかかわらず大勢の応援団や観客が駆けつけ、試合前からヒートアップ。法政は前半、変則6：0DFで藤代紫水14番信太のリズムを崩す。藤代紫水も高く厚いディフェンスで法政を押さえ込み、前半10分を終了して5 － 5の同点。10分過ぎ、藤代紫水3番小室の連続得点で突き放しにかかるが、その後一進一退の攻防で13 － 12で法政二が1点リードで折り返した。

後半が始まり、藤代紫水が信太のシュートで同点に追いつく。後半5分過ぎ、藤代紫水・滝川監督が勝負



写真提供：スポーツイベント社


写真提供：スポーツイベント社

どころとみて、選手にアクションまじりで指示を出す。そこから4番草間の打点の高いミドルなどで突き放し、4点をリード。法政二も8番仁平のロングなどで応戦するが、藤代紫水GK小磯が立て続けに好セーブ。小室の連続得点もあり、一気に試合を決めた。法政二は勝負どころでの退場が響いた。

◆女子

【準決勝】

府立洛北　29（21 − 6, 8 − 11）17　夙川学院
（近畿・京都）　（近畿・兵庫）

〔戦評〕開始早々5番後藤のロングで洛北が先制、立て続けに5点連取。夙川もポストプレーで1点返すも、洛北DFを崩すことができず、前半10分で12 − 2と洛北が10点リード。その後は洛北のペースがゆるみ夙川GK田中の好セーブもあり、夙川が守りきる。後半はメンバーチェンジを繰り返した洛北のミスや3人連続退場などの隙をついて夙川が得点を重ねるが、前半の点差はうまらず29 − 17でゲームセット。

洛北の主将10番山上が10得点の活躍を見せる。

高岡向陵　29（17 − 12, 12 − 12）24　四天王寺
（北信越・富山）　（近畿・大阪）

〔戦評〕高岡向陵5番竹内が先制してから4点連取。四天王寺もポストプレーで得点するも前半10分で7 − 2の5点差。しかし、攻守ともにリズムが出てきた四天王寺は盛り返し、前半15分には1点差まで詰め寄る。向陵も竹内のロング、ステップ、ポストプレーで息を吹き返し、再び4点差まで突き放す。四天王寺はタイムアウトで流れを変えようとするが退場が出てしまい、点差が詰められず前半17 − 12で折り返す。

後半DFシステムを変えて四天王寺が対応も、向陵はポストプレーとサイドシュートで対応する。しかし、3番作内、5番竹内へのプレスを強めるＤＦがはまり、後半15〜25分の10分間で1失点と守りきり、3点差まで四天王寺に詰め寄るが逆転までは至らず、高岡向陵が逃げ切る。向陵3番の作内が11得点の活躍を見せた。

【決勝】

高岡向陵　31（17 − 9, 14 − 15）24　府立洛北

〔戦評〕洛北5番後藤の速攻得点で始まる。前半10分まで両チームとも固いDFで守り合い、一進一退の3 − 3。11分、高岡向陵3番作内の7mTで口火を切り得点を重ねる。洛北も後藤のカットイン、10番山上のロングで応戦し、15分までに8 − 6の2点差。17分、高岡向陵も作内のミドルから立て続けに得点し、20分までに5点差にする。洛北も再三シュートチャンスを作るが、ことごとく高岡向陵GK石田に阻まれ、点差を縮めることができない。その後も高岡向陵は得点を重ね、前半を17 − 9で折り返す。



写真提供：スポーツイベント社

後半、洛北が2連取し追いかける。高岡向陵は、作内のシュートやポストプレーで応戦。洛北は山上のロング、9番采野のカットインで得点を重ねていくが、高岡向陵のバランスのとれた攻撃と、GK石田の好セーブに阻まれ、前半の得点差を縮めることはできず31 − 24で試合終了。高岡向陵が選抜大会初優勝を手にした。

高岡向陵・作内が12得点の活躍を見せた。


写真提供：スポーツイベント社

PHOTO GALLERY





選手宣誓







渡邉佳英（財）日本ハンドボール協会会長





森安昭雄 全国高体連ハンドボール専門部委員長



↑女子優秀選手表彰
↓男子優秀選手表彰





栗岩淳一 全国高体連ハンドボール専門部部長



大塚文雄 東京都ハンドボール協会理事長



大西武三（財）日本ハンドボール協会専務理事

全日本実業団ハンドボールチャレンジ2006



写真提供：スポーツイベント社

全日本実業団ハンドボールチャレンジ2006 大会を振り返り

全日本実業団ハンドボール連盟理事長　**工藤 雄三**



▶はじめに

今大会は、全日本実業団トーナメント大会から通算して37回目の大会となり、また「のじぎく兵庫国体」のリハーサル大会として兵庫県協会様・高砂市及び加古川市国体推進の方のご協力を頂き、たいへん盛大に行なわれました。

この大会への参加は、企業内での位置づけに苦慮し、チーム数が減少している中で参加された16チームは、日頃少ない練習時間内でのトレーニングの成果を、テクニックでカバーし見ごたえのある大会となりました。そして、昨年から参戦して頂きました高知クラブが2年連続の出場、更には日本リーグに加盟していますトヨタ自動車が久々の出場となり、国体リハーサルに相応しい熱気に満ちた大会になりました。又、兵庫県の皆様や、モルテン様、並びに地元企業様、大塚ベバレジ様並びに地元企業で支援していただきました皆様がたに大変お世話になり、立派な大会が運営できたことを、感謝しております。本当にありがとうございました。

▶大会全体を振り返り

組み合わせは、日本リーグより6年ぶりの出場となったトヨタ自動車を第1シードとし、昨年この大会で優勝成し遂げ、高松宮記念杯全日本実業団選手権大会でも活躍している八光自動車工業を第2シードに、また昨年2位の高知クラブを第3シード、昨年3位の金沢市役所を第4シードに致しました。残りの12チームの組み合わせは昨年の結果を考慮し、1回戦では同地区対戦を避け普段対戦できないチーム同士での抽選をおこないました。

試合形式も貴重な時間を昨年と同様に遠方から参加していただいたチームが、1回戦だけで終わることのないように敗者戦を設けることで、いろんなチームや関係者の方と交流が深められるようにいたしました。

また、今大会は今年の秋に開催されます「のじぎく兵庫国体」のリハーサル大会として行われたことも大きな特徴でした。ブラスバンド付の盛大な開会式に始まり、ハンドボールのPRも盛り込みながら国体本番に向けた地元関係者の方の意欲や暖かさがとても感じられる大会でした。

地元の方のご協力もあり、観客は常時250名～300名が見つめる例年以上の熱気の中で各チームはもちろんのこと地元運営者の方々の機敏な行動で活気ある会場となっていました。

企業スポーツは依然として厳しい風が吹く中、そんな状況を吹き飛ばすような選手たちの活躍が光っていました。

試合結果はベスト4には、前回優勝の八光自動車に、日本リーグ2部のトヨタ自動車、前回2位の高知クラブそして、若手が加入し勢いがあったセントラル自動車が進出しました。

各ポジションに安定した選手を揃えた八光自動車が優勝、日本リーグの意地を見せたかったトヨタ自動車は一歩及ばず2位。まだまだ若手が伸びている高知クラブが3位、活発な補強をしているセントラル自動車が4位となった。

また、上位入賞は果たせなかった大阪ガス、金沢市役所，トクヤマ、豊田自動織機の4チームも日本リーグで活躍した選手のテクニックや若手のハツラツとしたプレーを見せ、ベスト4に進出したチームと白熱した接戦をしていた。

更に、敗者戦では自衛隊久里浜が足を使った攻撃で着実に得点を重ね、安定した力を発揮し敗者戦の1位となったが、敗者戦の1位こそ逃したものの若い選手多いブラザー工業も素晴らしい試合をしていた。

全日本実業団チャレンジ2006大会優勝とその取り組み

八光自動車監督　福島 剛志

昨年に引き続き２年連続で優勝することが出来ました。今年は日本リーグ２部のトヨタ自動車が参加していたこともあり、なんとか決勝で対戦する事を目標に勝ち上がっていけました。この時期の充分な練習も出来ていない状態では本当に価値ある優勝になったと思います。

トヨタ自動車との決勝は３・２・１ディフェンスでプレスをかけ速攻から得点する事で序盤から主導権を握れました。前半途中、連続失点から同点に追いつかれる場面もありましたが、それ以降は終始リード出来ていましたので交代メンバーがいない我々には理想的な試合運びができたと思います。

フィールドプレイヤー６人中４人が 170 ｃｍ以下なので全員で走り回るスピードあふれるハンドボールを目指し実践できたのではと思います。

ハンドボールチームが減少していく中、我々八光自動車は日本リーグには参加しておりませんが、ハンドボール競技の底辺の拡大を目指し微力ではございますが社会や地域のハンドボールに貢献できる継続した活動を目指しています。

最後に本大会は「のじぎく兵庫国体」のリハーサル大会ということもあり、スタッフやボランティアの方々のサポートに選手達も思う存分プレーすることが出来ました。

大会運営にご尽力いただいた全ての方々に深く感謝を申し上げます。



アジア選手権大会を戦って



全日本男子チーム監督 松井幸嗣

第12回アジア選手権大会・兼第20回世界選手権大会アジア地区予選が2006年2月12日から21日まで、タイの首都バンコク・ナショナルスタジアムで開催された。当初、中国での開催が予定されていたが、直前になっての開催地変更があり、また、サウジアラビアの不参加もあって9チーム参加の大会であった。

日本の予選リーグはイラン・中国・カタールと同組であったが、1勝2敗の成績で準決勝に進むことが出来ず、5位決定戦にまわった。この時点で世界選手権の出場権を獲得することが出来なかった。

基本的な考え方と評価

アジア選手権大会において3位以内に入賞し、世界選手権大会に出場するための全日本チームのテーマは

「機動力を活かしたスピードハンドボール」
―世界基準に合わせた攻防の切り替えが速いハンドボール―

である。

A．スピードハンドボール（オフェンス OF）

①速いスピードでポジションチェンジ、システムチェンジを使いながら個人の強みを発揮したセットオフェンスによる得点力のアップ。
（評価）下記をディフェンスの場面に応じて組み合わせたオフェンスを展開できたか？
・ユーゴ（サイドユーゴ・ユーゴサイド含む）
・クロスチェンジ1回、2回
・センターポスト、センタークロス
・バッククロス、中継
・ワイド（ポジション攻撃）
・ダブルポスト（切り際の攻撃含む）
・コンビプレー
・6－5、5－6のオフェンスのきっかけ
※セットオフェンスによる得点
76得点／130得点（4試合） 総得点の58.5％
②速攻による得点力のアップ
（評価）速攻による得点
35得点／130得点（4試合） 総得点の27％
③クイックスタートによる得点力のアップ
（評価）クイックスタートによる得点
11得点／130得点（4試合） 総得点の8.5％

B．スピードハンドボール（ディフェンス DF）

①3－2－1ディフェンスシステムの確立
足を速く動かす攻撃型のディフェンスを目指す
（評価）下記の項目などから積極的なディフェンスにより、相手のミスを誘発することが出来たか？
・6人が連動し相手のミスを誘発する（DFの高さ、ライン、牽制）
・切に対して接触しリズムを崩す
・角度の狭いサイドシュート、外角のDSでの勝負の徹底
②6－0ディフェンスシステムの徹底
牽制を入れながら「受け身」にならないディフェンスを目指す
（評価）下記の項目などからの積極的なディフェンスにより、6～9m内危険エリアからのシュートを排除出来たか？
・牽制を効果的に入れオフェンスのリズムを崩す
・9m外のDSをGKと関連をとる
・角度の狭いサイドシュート、外角のDSでの勝負の徹底（ゴール幅での9m内シュートは必ず排除する）

C．得点・失点

①一試合の総得点：31得点以上（一試合平均60回の攻撃）を目指す
（評価）平均得点：32.5点（4試合）
参考 05世界選手権…平均得点：24.2点（5試合）
参考 スペイン遠征…平均得点：29.8点（8試合）
しかし負けた試合 対イラン戦 25得点
対カタール戦 30得点
②一試合の総失点：30得点以下（一試合平均60回の防御）

を目指す
（評価）平均失点：28.5点（4試合）
参考　05世界選手権　平均失点：30.2点（5試合）
参考　スペイン遠征　平均失点：29.9点（8試合）
しかし負けた試合　対カタール戦　34失点
上記のように
A．スピードハンドボール（オフェンス）
B．スピードハンドボール（ディフェンス）
C．得点・失点
をチームの基本的な考え方として強化し、評価したものである。

基本的な考え方に対する結果

A．スピードハンドボール（オフェンス）では…

・ポジションチェンジ、システムチェンジを使った展開では、状況に応じた攻撃が出来た
・コンビプレーは数パターンによる攻撃が出来た
・6－5、5－6は必ずしも攻撃が出来ていたとはいえない
・速攻、クイックスタートでは総得点の50％を目指したが出来なかった

B．スピードハンドボール（ディフェンス）では…

・3－2－1ディフェンスのシステムは理解できたが、上手く機能しなかった
・継続的に6人が連動し、相手のミスを誘発することが出来なかった
・切りに対して接触しリズムを崩すことが継続的に出来なかった
・角度の狭いサイドシュートにおいてシュートを決められる場面が多かった
・6－0ディフェンスにおいて6～9m以内の危険エリアからのシュートを阻止する場面が少なかった
・牽制を効果的に入れ、オフェンスのリズムを継続的に崩せなかった
・ゴールキーパーと関連、連携が充分ではなかった

C．得点・失点では…

・平均得点（4試合）は、32.5を得点し、目標値をクリアできた（05世界選手権、スペイン遠征よりも良い数値が得られた）
・負けた試合では、30得点以下の得点しかえられなかった
・平均失点（4試合）は、28.5点の失点で、目標値をクリアできた（05世界選手権、スペイン遠征よりも良い数値が得られた）
・負けた試合では、31点以上の失点を許した


写真提供・スポーツイベント社

まとめ

前回大会では8年振りに世界選手権の出場権を獲得したものの、二大会連続で世界選手権に出場が出来なかったことに対し、監督として心からお詫び申し上げます。監督である私がチームの状況を把握し、アジア選手権を突破して世界選手権出場権獲得のための戦術・戦略で戦うことが出来たか、反省する必要がある。大会には〈チームのテーマ〉、〈基本的な考え方〉を根本に戦術や戦略を練って臨んだ。結果として世界選手権出場の目標は実現できなかった。このことは〈基本的な考え方と評価〉、〈基本的な考え方に対する結果〉のとおりである。

今大会で一番強く感じたことは、スタッフも含めて世界で戦うための強靭な精神力、そして絶対に勝つ！という勝利欲、相手を倒してでも一点獲る！一点護る！という闘争心、さらには心身ともにいかなる苦境に立たされても耐えられる“力”が必要である。また、ディフェンス面において個人のフットワーク力の強化、当たりの強さなど、個の技術力の重要性を強く感じた。オフェンス面では、あと5点の得点力アップをする事で35点以上になる。その為には相手ディフェンスの上から打ちぬける190㎝以上のバックプレーヤーが必要であると感じた。さらに、速攻・クイックスタートでの得点力をアップするとともにクイックスタートも得点源の大きな要素として考えるべきだと感じた。

最後になりましたが、今大会に向け、多くの皆様のご支援、ご協力、そしてご声援に感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

「野球世界一の教え」

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

日本の野球が世界一になった。ご存じ第１回ワールド・ベースボール・クラシック（WBC）。審判の「誤審」に耐え、韓国には２度も悔しい思いをさせられ、４強進出には崖っぷちに立たされながら、米国が敗れる奇跡に恵まれるなど幸運をもらって、いや引き寄せての優勝だった。

近年、野球はサッカーに押され、テレビ視聴率もダウンと苦しい状況にあった。それが一気に人気を取り戻したように日本中が興奮、感動した。優勝のタイミングもプロ野球界にとってはまさにドンピシャといってよかった。時期はパ・リーグ開幕直前。しかも世界一に輝いた王監督率いるソフトバンクと昨シーズンのチャンピオンであるロッテの黄金カード。いやが上にもファンは盛り上がった。

果たしてプロ野球は低迷から脱出するのか。その答えはペナントレースでの各球団、選手の戦い方にあると言えるだろう。願わくば、この勢いを終盤まで続けてもらいたいものである。

さて、皆さんはWBCの戦いをどのようにとらえられただろうか。私はヒヤヒヤ、ハラハラから最後はこれまでにない感動をもらった。

感動したのは、選手全員が使命を達成しようと必死で戦ったことである。日本の代表としてまさに使命感に燃えていたといえることだろう。

平凡な打球でも全力疾走、頭からの滑り込み、守っては最後まであきらめずにボールを追った。こうしたシーンを幾度となく見せられると、日本中が沸き返ったはずである。

また、イチローの「変身ぶり」にも驚かされた。沈着冷静と思っていたイチローだが、とんでもない。自分をさらけだしてチームをリードした。韓国との３戦目を前に驚くほどの挑発発言にもびっくりさせられた。「３度も負けるわけにはいかない」－勝負に賭ける強い執念を思い知らされた。それが選手の団結力と勝負への執着心を植えつけたといっていいだろう。

こうした勝負にかける「ひた向きさ」や「執着心」さらには「燃える心」を見せつけられては、野球にあまり関心のない人たちでも自然に応援するようになることを証明してくれた。

さて、ハンドボール界はどうだろうか。日本の現在の最大の「宿題」は08年の北京オリンピック出場であることは、関係者の一致した思いである。

日ごろからWBCでの日本代表のような戦い、プレーを心がけることが大切である。親善試合だから少しは手を抜いてもいいのでは。本番にやれば―なんて気持ちで戦っては恐らく北京切符は手の届かないところに逃げていくだろう。

気合のこもったプレーは常日ごろから心がけることが何より重要であるはずだ。「どうせまた中東の笛を吹かれるだろう」なんて考える前に、自分たちがやることはいっぱいある。

熱いハートを持った戦いは、必ずファンをとりこにする。WBCがそれを実践してくれた。そして頂点に立った。ファンに戦う気持ちが伝わるようなプレーをしていくことが「強いニッポン」をつくりだしてくれると確信する。

北京オリンピック予選までの準備期間はそんなに長くない。むしろ短いといってもいいだろう。日本招致の動きもあるが、地元だからなんて甘い考えは通用しない。アテネオリンピック予選で身をもって痛感したはずである。

目標に向かってチームが一つになることがどれほど大切なことか―WBCでの日本代表は教えてくれたではないか。ハンドボール関係者もおそらくそのような気持ちを持たれたのではないかと思う。

最後まであきらめない強い姿勢、集中力、そして闘争心、これらがいかに大切かを否定する人はいないだろう。しかし、一方でこれらを実践することは並大抵のことではないし、一朝一夕で成し遂げられるものでもない。強い精神力と忍耐力が要求されるのはもちろんである。

世界にはばたくためには、こうしたものが完全にミックスされて初めて実現されると思う。野球が教えてくれた「熱い戦い」を改めて胸に刻み、日常からそれぞれの生活に溶け込ませることではないだろうか。



もっと高く！ 天空の支配者・宮﨑大輔物語 ②



久保 弘毅 ハンドボールライター

写真提供：スポーツイベント社

大分電波での思い出

中学を卒業した宮﨑大輔は大分電波高校に進んだ。宮﨑が２年の時に「大分国際情報」に校名が変わったが、ハンドボール界では「電波」の愛称で知られる名門である。

冨松秋實監督の指導の下、宮﨑は力を伸ばす。基礎を反復することで、脚力、ジャンプ力がついた。ロングシュートも面白いくらいに決まるようになった。垂直跳びで 95 ㎝も跳ぶのだから、高校生のディフェンスでは抑えようがない。当時宮﨑も「上から打てないわけがない」と思っていた。

また冨松監督からはクイックシュートを徹底して教わった。ディフェンスが空いた瞬間に素早く打つ。当たり前のようでなかなか出来ない高等テクニックを、宮﨑は厳しい指導の中で身につけた。宮﨑の大きな武器となっているクイックシュートの原点は高校時代にある。

余談になるが、プレー中の宮﨑の写真を撮るのは難しい。一試合に 10 点近く取るのだからシャッターチャンスは多いはずだが、いいシュートシーンが撮れない場合が多い。これはカメラマンの技量以上に、宮﨑のシュートのタイミングも影響している。

宮﨑は予想外のタイミングで素早くシュートを打つ。しかもディフェンスを巻いて打つから、球の出所が見にくい。カメラマンが見にくければキーパーからも見にくい訳で、シュートもよく決まる。だから「いい選手ほど写真が撮りにくい」という図式が成り立ち、宮﨑にも当てはまる。

さらにはフェイントにも磨きをかけ、宮﨑は高校レベルでは誰にも止められない存在になった。高２のインターハイ、高３のセンバツ、インターハイと３季連続で得点王に輝く。しかし宮﨑自身は「個人技」と言われるのを好まない。

「よく『宮﨑の個人技』と言われるんですけど、周りが崩したり、パスしてくれたからシュートが決まるんです。点が取れるのはチームメートのおかげ。みんなの力があるからです」

チームメートの中でも特に馬が合ったのが末松誠（大同特殊鋼）である。華やかで屈託のない宮﨑と、真面目でおとなしそうな末松。正反対な印象の二人だが、すぐに仲良くなった。そして初心者だった末松も３年になるとレギュラー入りし、コート上でも名コンビが結成される。末松のパスを受けて宮﨑が決める必勝パターンが出来上がった。

二人は今でも仲がいい。代表の遠征では同じ部屋。ウォーミングアップでもペアを組む。練習が終われば二人でじゃれあう。宮﨑が笑えば末松も相好を崩す。無邪気な二人の姿は、近所の子供を見ているようで微笑ましい。

そして試合中は互いを助け合う。２月のアジア選手権では、宮﨑をベンチで休ませる間に末松が出場するケースが多かった。末松と交代する時、宮﨑はいつも「誠、思いっ切りやれよ」と声をかけていた。言葉を受けた末松は積極的なプレーでチームに貢献した。末松は言う。



宮﨑選手（　）と末松選手（右）

「大輔が疲れた時に力になれるよう、僕も思い切りプレーしました。大輔の言葉は自分の力になったし、今また同じチームでお互いを助け合えるのがうれしい」

日本代表として、二人の絆はさらに深い物になっている。

チームメートに恵まれた高校時代だったが、日本一には手が届かなかった。最高成績は２年のインターハイでの準優勝。主将を務めた３年のインターハイでは準決勝で 20 点を取る大活躍をみせたが、此花学院に延長の末、30 － 31 で敗れた。此花学院には練習試合で一度も負けたことがなかった。しかし公式戦ではまさかの黒星。またも勝つことの難しさを知らされた。

日体大へ進む

高校球界のエース宮﨑の進路は注目されたが、二転三転の末、日本体育大学への進学が決まった。当時の経緯を宮﨑は「松井さん（幸嗣、前日本代表監督）に拾ってもらった」と言う。一時はハンドボールから気持ちが離れかけた宮﨑だが、大学球界で最高の人材が集まる日体

大でハンドを続けるチャンスを得た。

入学早々、センターのレギュラーとして活躍。物怖じすることなく、実績のある先輩たちにも指示を出した。この「先輩を動かす力」は宮﨑の大きな武器のひとつである。どんなに上手くても、1年生は遠慮してしまうもの。試合の組み立てにも口をはさめない場合が多い。しかし宮﨑は違った。

「勝つためにはみんなの意見が必要です。だから僕も『自分のこのプレーが効果的ですよ』と言います。先輩に動いてもらうという発想じゃなくて、あくまでも『勝つための提案』です」

19歳で日本代表に初めて選ばれた時も、宮﨑は「こういうプレーをしましょう」と提案し、存在を認められた。発想の原点が「勝つため」だから、決して「生意気だ」とは言われなかった。

関東学生リーグでは1年の春、秋と得点王。本命視されたインカレでは3回戦で筑波大学に20－22で敗れたが、宮﨑は早くも大学球界で無敵の存在になっていた。そして1年目も終わりに近づいたある日、宮﨑に朗報が舞い込んだ。

スペイン留学

2001年、日本協会はアテネ五輪出場を目指し、特別プロジェクトを立ち上げた。その中の目玉とも言える企画が海外留学だった。スペインに有望な若手を送り込んで、鍛えようというプランである。そのスペイン留学のオファーが宮﨑に届いた。

「スペインへ行かせてください！」

宮﨑は誰とも相談することなく、即答した。ちょうど海外でプレーしたいと思っていた時だった。何の迷いもなかった。もっと高いレベルで自分を磨きたいという思いだけだった。

そしてFCバルセロナやグラノイエルスの2軍、ポソ・ブランコで2シーズンを過ごした。スペインリーグ1部での試合出場こそなかったが、宮﨑は本場で多くの物を吸収する。

「そりゃ初めは苦しかったですよ。スペイン語も話せないから相手にもされない。パスだって回ってこないし、偏見だってある。ひとつひとつに打ち勝っていかないといけませんでした。常に自分の姿勢を見せる必要がありました。

でも、アピールするチャンスって一杯あるんです。ボールが来るのを待つんじゃなくて、自分から取りに行くとか。チームメートとも進んでコミュニケーションを取って、冗談を言い合うのも大事です。そういう積み重ねがあったから、僕も認められました」

留学の話をすると、宮﨑の口調も自然と熱を帯びる。心身共に外国人選手に当たり負けないためにも、留学は必要だと力説する。

「とにかく『海外に行く』という意欲が大事です。高いレベルに身を置けば、自分もそのレベルに追いつこうと成長しますからね。『天井効果』ですよ。それに若いうちから外国人に慣れておくのも財産になります。日本の若い選手には是非、海外に行ってもらいたいですね」

まだ24歳なのだが、宮﨑は後輩たちを思う気持ちが人一倍強い。会見でのコメントには必ず、次世代へのメッセージが織り込まれている。

「自分が日本のハンドボールを背負っている訳じゃありません。みんながハンドボールを背負う気持ちが大事です。たま



たま僕がスポーツマンNO.1決定戦で優勝しただけで、僕一人の力では、いずれハンドの人気も消えてしまいます。これを後輩たちへつなげていかないと。途切れたら意味がありません。

韓国がなんで強いかというと、勝ち続けている歴史があるからです。先輩から受け継いだ経験があるから、勝利への執着心も違ってくるんです。だから自分たちも勝つことで、次へつなげていかないといけませんね」

後輩を思う気持ちはプレーにも表れる。2003年の秋に宮﨑は日体大に復学。相手のマークを一身に引き受け、後輩の東長濱秀作（湧永製薬）へ絶妙なラストパスを送り続けた。時には東長濱に15点も取らせる試合もあった。宮﨑は自分の得点を気にする様子もなく、「（東長濱）秀作はあれくらい決めますから」と後輩を持ち上げた。

周りを生かすプレーはチームのレベルを上げる。この年日体大はインカレを制覇。宮﨑にとって初めての日本一となった。全日本総合では2回戦でホンダ熊本と対戦。29－32で敗れたが、日本リーグ1部のチーム相手に最後まで接戦を演じた。

そして年が明けた2004年1月、宮﨑はひとつの決断を下した。（次号へ続く）

特別寄稿

「ビーチハンドボール」の内外情況と今後

杉山　茂（スポーツプロデューサー）

■ビーチハンドボールの現状

「ビーチハンドボール」の国際的な振興は着実に進んでいる。

今夏7月10日から16日までクックスハーフェン（ドイツ）で開かれる第4回ヨーロッパ選手権大会は、男子16ケ国、女子14ケ国の出場が確定した。世界ビーチ選手権（第3回、詳細未定）へつながるヨーロッパ予選を兼ねるのは確実で、チャンピオンスポーツとしての高まりが順調なことを示す。

一方、単独チームによる各国のローカルイベントも盛況をつづけ、なかでもヨーロッパ各地の大会をパッケージにしたヨーロッパ連盟（EHF）の企画は盛況のようだ。「ヨーロッパ・ビーチツアー」（EBT、ツアー）と呼ばれるシリーズで、今シーズンは3月末現在で10ケ国14トーナメントがエントリーしている。

「EBT」のなかにはスペインの「ラモン・ド・カランザ」のように今年で12回目を数える大会もあるし、ハンドボールそのものは発展途上のイングランドで開かれる「ウェーマスビーチ」は、人気大会の1つになっている。原則として、各大会への参加はオープン、昨年はテキサス（アメリカ）のチームが転戦した。

EHFは、運営上の円滑化を図るため、予め参加登録を受け付け、さらにレジャー色に競技性をからめる目的で「EBT」での結果をポイント化してランキング（男女トップ10）を作成、シーズン後に発表するアイディアを盛り込んだ。家族連れや友人同士で各地を“巡遊”して廻る和やかなムードに、勝負の味付けをしたことで人気を呼んでいる。

それでも、チャンピオンスポーツとどのように“色分け”するかは、EHFも各国協会も明確な線を打ち出していない。

ヨーロッパ選手権や世界選手権には「スタンダード＝標準的な7人制」の選手を臨時に転向させて参加する方法がしばらくは主流になりそうだ。代表クラスのなかには、リフレッシュのため「ビーチ」に関心を示す選手も多くなっている。

一方で「ビーチ」愛好者のなかにビーチの競技力を追うタイプも育ち始めた。今夏のヨーロッパ選手権の各国の陣容が注目され、今後の展開にも1つの方向を示すのではなかろうか。

EHFが「EBT」の事業化を策している面ものぞく。すでにトヨタ、三星（韓国）などスポンサー付きのトーナメントも増えている。賞金額はともかく、賞金大会は近い。そうなれば「EBT」は「するスポーツ」から「見せるスポーツ」へとしだいにカラーが変わるだろう。

ジャーナリストたちは「時間がかかる」と見ているが、スポンサー－テレビ放映－事業（商業）化、そして「オリンピック参入への模索」へと走り出す姿も浮かぶ。

手本は「ビーチ・バレーボール」だ。ブラジルなど南米勢がEHFに優るとも劣らぬ「ビーチ」への肩入れするのも、この動きと無関係ではない。

「ビーチ」競技は砂浜に限らない。世界には海のない国も多いのである。EHFは「砂場ハンドボール」によって、「スタンダード」の難技を、経験の少ない者でも親しめるとして愛好者を増やしてきた。その拡充ぶりの速度は予想以上だ。

■発祥はイタリアの浜辺

「ビーチ」の歴史は、相変わらずオーソライズされた文献や資料がないようである。

80年代後半、イタリアの海岸で遊びとしてバレーボールやフットボール（サッカー）と同じように親しまれていたが、ほかのスポーツに比べ“組織化”は遅れた。遅れたと、いうより、競技性への注目は低く、遊びの域を出ることに、誰もが関心を抱かなかったと言える。

90年代になると、にわかに流れが変わる。特にイタリアのティレニア海沿岸の浜辺で競技化―組織化が進んだ。

日本では当初、反対側のアドリア海沿いの浜辺で見聞した関係者や愛好者が多かったが、これはユーストーナメントとして高名な「インテルムニアカップ」の開催地テラモに近かったためと思われる。

実際には、ティレニア海沿岸で盛んとなり、1992年6月、同海上の小島ポンツァ島（Isola di Ponza）で、初の“公式大会”が行われるまでになった。この時が「ビーチ」の競技としての幕開けと言えよう。

イタリア球界で活動していたギアニ・ブッタレリー、フランコ・スチアーノ両氏が推進役で、1ケ月後の7月20日、ポンツァ島の中心地ポンツァ市で外国チームを加えての大会が開かれている。すでにイタリア以外でも「ビ

ーチ」が行われていたこと示すもので、ロシアのクラブも参加した資料がある。

地元マスコミは、このニュー・スポーツを「涼しい風をうけ、水銀燈に照らされたコートで…」と紹介している。

ブッタレリー氏らは手応えを得てイタリア協会（FIGH）内に「ビーチ委員会」（COHB）を設け本格的な普及に入る。このあたりの展開が「ビーチの発祥はイタリア」といわれる所以（ゆえん）だろう。

FIGHは1993年のカレンダーに「第1回国際ビーチ大会」を載せ、12チームが集まるが、そのなかに台湾の名もある。

「EBT」の1大会に2001年からイタリアで「ブッタレリー記念大会」が行われているのを見ると同氏は未確認だが他界されたと思われる。

1994年は「ビーチ」にとっては特筆すべき年となる。FIGHの「第2回国際」に初めて女子の部が加えられ、5月には国際ハンドボール連盟（IHF）が「競技としての認知」を明らかにするのだ。“遊び”をスタートに、10年足らずで国際組織を動かすまでに飛躍したのは、IHFがかねてから、夏のスポーツとしてのオープンエアのハンドボールに興味を抱いていたことが大きい。

サマーキャンプに合わせたグラス（芝生）コート・ハンドボールは1950年代までのフィールドハンドボール（11人制）の名残りを留めるもので、ドイツやスイスでは人気があった。「陽光と風」を求めたハンドボールの“開発”は待たれていたのである。そこへ「ビーチ」の登場だ。前述したビーチバレーボールのオリンピック採用（1996年アトランタ大会）にも刺激された。

■94年IHF総会で“認知”

1994年9月、ノルウェイク（オランダ）で開かれたIHFの第25回通常総会は「熊本世界選手権（1997年5月）」の開催が決議された記憶されるべき会議だが、実は、このほかに2つの大きな決定をしている。

1つは「プロ競技者」の承認であり、1つは「ビーチ」の公認である。

「ビーチ」は総会出席者を前に、初の公式国際試合となるイタリア－オランダ戦（男子）が行われた。この時点でIHFに統一された競技規則はなく、90年代に入ってまとめられた「イタリア・ルール」が適用された。

ちなみに、この歴史的というべき「イタリアン・ルール」は、当時の日本協会常務理事・竹野奉昭氏（現・日本協会監事）が、ヨーロッパからコピー（A4判5ページ）を取り寄せ持ち帰ってきている。

IHFの積極策で「ビーチ」はさらにはずみがつく。地域的には地中海沿岸諸国が熱をいれ、1995年に「メディティラニン（地中海）トロフィ」がイタリアで行われ、ブラジルは1995年1月アルゼンチン、イタリア、ポルトガルを招いて「第1回国際大会」を開き、翌年の大会にはキューバ、カナダも加わった。

オランダ、ドイツ、フランス、ギリシャ、トルコなども国内大会（1998年）に人気絶頂にあった名手ジャクソン・リシャーソンが姿を現し、「ビーチ」の人気を煽る一幕もあった。

IHFは、各国からの反響を受けて「ビーチ」の「ワールドゲームズ」への参入を図りはじめる。

1981年サンタクララ（アメリカ）で始まった国際総合競技大会「ワールドゲームズ」は、IHFなど各スポーツの国際連盟（IF）の連合体である国際スポーツ連盟連合（GAISF）が、加盟団体の1つ、国際ワールドゲームズ協会（IWGA）を主催者として開く4年に一度のイベントだ。オリンピック競技種目に採用されていないスポーツが一堂に会し「第2のオリンピック」とも呼ばれていた。

IHFは「ビーチ」にふさわしい世界の舞台と読んだのである。

余談になるが、80年代後半、ドイツ（当時は西ドイツ）やスイスが中心となって、この大会への「11人制」の実施を画策していると聞いた。この動きは立ち消えとなり「ワールドゲームズ」とハンドボールの接点は無くなったと思われた。それが「ビーチ」で甦った。

その時点で、もっとも近い「ワールドゲームズ」の開催は2001年8月の秋田県だった。IHFは日本協会への実施の支援を望むが、ここで新たな問題が浮かぶ。

「ワールドゲームズ」の正式競技に加わるには、世界選手権などを3回以上開いていることとするIWGAの内規である。このため、秋田大会では、順調に作業が運んでも公開競技（デモンストレーション）にとどまることになった。

このタイミングに、ブラジルが第1回世界ビーチ選手権を2001年12月に招致したいと動き、世界選手権の実績が欲しいIHFは渡りに船と乗った。秋田大会との日程が詰まっていたが、IHFは世界選手権を優先と公言、日本協会は激動する。その反発を知ってか知らずかブラジルは計画を白紙撤回、するとIHFは臆面もなく日本協会に秋田の公開競技を世界選手権にと要望してきた。

■普及と強化切り離す必要

日本協会と秋田大会組織委員会の誠意で、IHFの厚顔な要望は実現されるが、ブラジルが消えて、秋田で“世界選手権の数”を稼ごうとしたにしても、性格の明らかに異なる両大会の“合体”は、強引すぎた。その上、PRが充分でなかったフシもある。秋田に着いて世界選手権を兼ねると知ったチームや選手は少なくない。

この整理はいまだについていない。2005年デュイスブルグ（ドイツ）で開かれた第7回ワールドゲームズの「ビーチ」は招待競技の名で実施されたが、IHFはその参加国を2004年11月の第2回世界選手権（エジプト）の順位で決めた。

IHFにおける「ワールドゲームズ」の“格付け”はどのようなものか。正式競技となることを目標とするなら、あと1回の世界選手権で条件は満たされることになる。だが「ワールドゲームズ」もオリンピック同様、適正規模を求めて厳しい姿勢を避けられない情勢である。

次回は2009年高雄市（台湾）の予定だが「ビーチ」の扱いは白紙だ（2006年1月現在）。

「ワールドゲームズ」の動向に詳しい日本人関係者は、高雄大会での「ビーチ」の立場は秋田やデュイスブルグより厳しいと見なければいけないと言う。

IHFの二兎を追う理由は定かではない。ワールドゲームズの「ビーチ」が不安定ならば世界選手権1本にしぼったほうが分かり易い。「ワールドゲームズ」もいまや完全なチャンピオンスポーツの集合であり、IWGAも「トップアスリートによるイベント」と姿勢を明確にしている。

「ビーチ」自体のレクリエーショナルな魅力は、競技志向と一線を画しているが、少なくとも「ワールドゲームズのビーチ」はIWGAのラインに沿うことになる。その面からすれば、デュイスブルグ大会の参加国を世界選手権のランクで選抜したのも首肯される。

IHFは、このあと世界選手権を「ワールドゲームズ」の中間年に設定するアイディアを持つという。思惑どおりに運べば2007年第3回世界、09年「ワールドゲームズ」（高雄）、11年第4回世界と“整理”できるが、実現される可能性は五分五分のようだ。

その前年に大陸予選を兼ねる選手権が開かれれば、日本協会の「ビーチ強化」への対応は組み立て易くなろう。秋田での「ワールドゲームズ」こそホストとして競技力（順位）を重視して男女全日本を編成した日本協会も、導入時から「ビーチ」は「するスポーツ」として位置づけている。

全日本選手権は今年で8回目となるが、大会は開放が横溢し、ほかのチャンピオンシップとは様相を異にする。この路線は今後も支持されるべきだろう。

課題は世界選手権と「ワールドゲームズ」への臨みかただ。両大会がチャンピオンスポーツとして確立されていることは述べた。日本協会が事業として出場を目指すならば、その部分は「普及」から切り離さなければいけない。

2004年の第2回世界選手権（エジプト・エルグーナ）、2005年の「ワールドゲームズ」（ドイツ・デュイスブルク）に参加した全日本女子は、いずも参加者（選手）が、全経費を自己負担した。「ビーチ」の普及に情熱を傾け、与えられた国際ルートを保とうと、少ないとはいえぬ費用を負う気持ちには驚かされるが、好ましいとは思えない。

日本協会には秋に第2回アジア女子、2007年には同男子が予定されるが、日本協会の意向は「参加見送り」のようだ。昨年の「ワールドゲームズ」も同様の経過をたどりながら、結局“自費参加”を認めている。今回は方針を貫き通せるのだろうか。

普及にしろ、強化にしろ日本協会は早急に「ビーチ」の行く道の論議を深めるべきだ。そのタイミングが遅れれば遅れるだけ世界の「ビーチ」のテンポを見誤ることになる。それでもいい、とするなら、それも見識だろうが、将来、悔いを残すことになりはしないか。

「ビーチ」は、日本協会が考える以上に、世界ではパワーフルに育っている。アジアでは「ワールドゲームズ」を控える台湾の意気込みが目立つ。

日本の「ビーチ」は、いつの間にか岐路に立たされている、と言ってもよい——。

◇　◇　◇　◇

この一文を故・北村善夫さんに捧げます。教員・研究活動のかたわら北村さんは日本協会機関誌の発行・企画・取材に情熱を傾け、今冬2月、多くの人に惜しまれながら若い生涯を閉じられました。「ビーチ」大会の帰途に依頼をうけた原稿です。

連載61

NTS2006報告

NTSコーディネーター　田中　茂

2000年からスタートしたNTS、本年度も世界のハンドボール動向をしっかり見据えた上での充実した内容のトレーニングが展開される事となっております。また各地で行われますブロックトレーニングの日程・開催地も次号でお伝えすると思います。

今年度も内容策定会議を開催し、NTSシュミレーションを行い昨年度の課題を中心に、世界で勝つための技術・戦術をより充実ししていきたいと考えております。

今年度も、各ブロックから始まりますNTSにご協力いただけますようお願い致します。

なお、昨年度1月に開催いたしましたセンタートレーニング年代別合格者を掲載いたします。

平成18年度NTSセンタートレーニング年代別合格者

男子

年代	名前	ポジション	身長	所属先
1987年	内田　武志	GK	191	東和大学
	石川　出	CP	178	日本体育大学
	甲斐　昭人	GK	184	日本体育大学
	畑山　政也	CP	188	国士舘大学
	松本　勇樹	CP	173	大阪体育大学
	棚原　良	CP	190	日本体育大学
	木切倉真一	CP	173	筑波大学
	東長濱秀希	CP	185	日本体育大学
	生川　岳人	CP	180	日本体育大学
1988年	根本　恭兵	CP	183	東海大学
	濱田　竜士	CP	188	大同工業大学
	砂川　慶成	CP	173	興南高校
	久保　侑生	GK	186	大分国際情報
	斎藤　英樹	CP	178	学法石川高校
	小室　大地	CP	188	藤代紫水高校
	大嶋誉志央	GK	186	北陸高校
	光武　純	CP	176	法政第二高校
	多和田裕介	CP	182	岡崎城西高校
	坂　洋明	CP	185	藤代紫水高校
	佐藤　泰吉	CP	178	市川高校
1989年	上原　健治	CP	177	興南高校
1990年	木村　昌丈	GK	182	藤代紫水高校
	久保龍太郎	CP	181	香川中央高校
	和田　涼	CP	186	昭和学院高校
	篠崎　剛志	CP	177	富岡高校
	内野　康平	CP	180	瓊浦高校
	牧山　仁志	CP	177	法政第二高校
	宮本　克哉	CP	176	育英高校
1991年	佐藤慶太朗	CP	187	北嵯峨高校
	糟谷　周穂	GK	187	瓊浦高校
	高橋　一誠	CP	180	不来方高校

女子

年代	名前	ポジション	身長	所属先
1987年	前田　奈美	CP	167	武庫川女子大学
	梅林　由	CP	170	早稲田大学
	若泉　春香	CP	171	大阪教育大学
	川崎　愛	CP	177	筑波大学
	小菅　由貴	CP	172	筑波大学
	石原　直美	CP	177	大阪教育大学
	永田しおり	CP	171	オムロン
1988年	池之端弥生	CP	173	東京女子体育大学
	林　志帆	CP	170	夙川学院高校
	後藤千渡世	CP	161	洛北高校
	山上　麻美	CP	169	洛北高校
	山野由美子	CP	168	小松市立高校
	亟々　知佳	GK	171	夙川学院高校
	岡本　真季	CP	170	四天王寺高校
	石野実加子	CP	166	氷見高校
	鳥飼　翠	CP	170	富岡東高校
	作内　杏那	CP	175	高岡向陵高校
1990年	平川　愛理	CP	167	大分鶴崎高校
	平岡　朋子	CP	169	四天王寺高校
	森澤　佳奈	GK	171	四天王寺高校
	秋田　紗貴	CP	172	洛北高校
	上原　未希	GK	167	那覇西高校
	大岡　未英	CP	169	豊橋南高校
	乾　彩友美	CP	172	洛北高校
1991年	松木　史	CP	167	熊本国府高校
	原　希美	CP	171	宮崎学園高校
	平良　紫乃	CP	165	那覇西高校

アンチ・ドーピング、ドーピング・コントロールの現況

IHF 医事委員・AHF 医事委員長　西山 逸成

2003 年以降、世界のアンチ・ドーピングに関する組織・機構が統一されたので、アンチ・ドーピング組織・機構及びドーピング・コントロールの概況を紹介する。

I. アンチ・ドーピングの組織・機構

ドーピングは競技能力を高めるための薬物等の使用である。そして、人体の健康を害し、フェアプレーの精神に反し、反社会的行為である。これらの防止や健全なスポーツの啓蒙活動としてのアンチ・ドーピング活動の組織・機能の現況を紹介する。

組織・機構	発足	主要機能・内容
WADA （世界アンチ・ドーピング機構）	2003 年 3 月にスポーツ界を統一するアンチ・ドーピング規則が採択された。 世界アンチ・ドーピング規程； 2003 年 3 月 5 日	アンチ・ドーピング機関； IOC（国際オリンピック委員会） IPC（国際パラリンピック委員会） IF（国際競技連盟）、主要競技大会、 NADA（国内アンチ・ドーピング機関）
JADA （日本アンチ・ドーピング機構）	日本アンチ・ドーピング規程； 2003 年 7 月	日本国内の各競技種目団体との連携 夏：28 種目 冬：7 種目 ＊ WADA の細則； ドーピング検査時の通告・検査記録・報告の様式紙
JHA （（財）日本ハンドボール協会） 「アンチ・ドーピング機構」	（財）日本ハンドボール協会 アンチ・ドーピング規程； 2006 年 3 月	「JHA アンチ・ドーピング規程」の構成内容； WADA 規程、JADA 規程、IHF 規程、AHF 規程 ＊ WADA、IHF、AHF の細則； ドーピング検査時の通告・検査記録・報告の様式紙
IHF （国際ハンドボール連盟） 「IHF アンチ・ドーピング機構」	IHF アンチ・ドーピング規程； 2005 年 6 月	＊ WADA の細則； ドーピング検査対象選手の抽出方法は、ハンドボール競技種目の特性として、オリンピック大会、世界選手権大会及びこれらの各大陸予選大会等、同一方法とする。
AHF （アジアハンドボール連盟） 「AHF アンチドーピング機構」	AHF アンチ・ドーピング規程； 2005 年 12 月	＊ IHF の細則； ドーピング検査対象選手の抽出方法は、IHF と同様であるが、抽選時期が異なる。 （IHF ＝競技終了前（5 分前）に対し AHF ＝ 10 分前）

Ⅱ．ドーピング・コントロール（ドーピング検査）

ドーピング検査では、検査として尿・血液の採取～分析機関（三菱化学研究所）での分析が実施され、陽性時（禁止物質の検出）～制裁～競技成績の抹消・資格停止となるが、その対象は選手のみでなく関係スタッフも制裁の対象となることがある。

またドーピング検査には、「競技会検査」のみでなく「競技会外検査」もある。

以下、ドーピング検査に関する主要な留意事項を紹介する。

留意事項	主要内容	留意事項等
競技会検査 （WADA, IHF, AHF）	競技会において、試合終了時（前、直後）に抽出により指名される。	抽出基準；（AHF 3.1） ①各試合、各チーム１名 ②レッドカードにより退場を提示された選手；（AHF 3.2） 試合終了時にドーピング検査に指名することができる。 ③ドーピング検査抽出選手の負傷（重症）時；（AHF 3.4） 他選手の再抽出（試合終了直後）
競技会外検査 （WADA, IHF, AHF）	①事前の予告はない。 ②採尿手続きは、競技会検査と同じ。	①対象選手には、国際的選手のみでなく、国内的選手も含めること。
禁止物質・禁止方法	WADAにより毎年、禁止物質・禁止方法・非禁止物質のリストが指定される。 現在は、2006年版をWADA、IHFのウェブサイトから入手できる	①大会前・中の服用、投与の薬剤の記入 IHF；試合１週間以前 AHF；試合72時間以前 ②禁止リストは機関紙次号予定
治療のための薬物処方 「治療目的使用」	①治療目的で禁止リストに指定された禁止物質・禁止方法を使用する場合には、「治療目的使用の適用措置（TUE, ATUE）の審査を受けなければならない。 ② TUE・ATUEのIHF/WADAへの申請は大会21日（3週間）前までにJHAから要請しなければならない。	①記入用紙は、JHAアンチ・ドーピング規程参照。 ② TUE・ATUEのJHA/アンチドーピング機構に大会５週間前までに定型用紙に英文記入にて、チームドクターまたは担当医師から提出する。
市販の薬への注意	過去の違反例から、総合感冒薬の殆どに含まれている興奮剤としての「エフェドリン」は要注意である。	禁止物質の種類； 興奮剤、麻薬性鎮痛剤、蛋白同化剤、利尿剤、ペプチド・糖蛋白ホルモン・他
選手の居所情報	年間、24時間の居場所情報の届け出義務が課せられている。	提出先；国際級― WADA・IHF 国内級― NADA

スコアールーム① 全日本実業団チャレンジ2006

期　日：2006年2月10日（金）～12日（日）
会　場：兵庫県高砂市総合体育館、加古川市立総合体育館

▼1回戦

トヨタ自動車（愛知）　31（12－6、19－6）12　マツダ（広島）
大阪ガス（大阪）　17（7－8、10－8）16　ブラザー工業（愛知）
セントラル自動車（神奈川）　33（22－5、11－8）13　新日鐵名古屋（愛知）
金沢市役所（石川）　30（17－5、13－8）13　周南市役所（山口）
高知クラブ（高知）　25（13－6、12－12）18　日本ゼオン（山口）
トクヤマ（山口）　22（11－8、11－12）20　自衛隊久里浜（神奈川）
豊田自動織機（愛知）　29（13－5、16－8）13　新日本石油根岸（神奈川）
八光自動車（大阪）　33（17－7、16－6）13　日本耐酸壜（岐阜）

▼2回戦

トヨタ自動車（愛知）　25（11－13、14－7）20　大阪ガス（大阪）
セントラル自動車（神奈川）　24（8－14、16－10）24　金沢市役所（石川）
（37MTC2）
高知クラブ（高知）　24（10－9、14－10）19　金沢市役所（石川）
八光自動車（大阪）　21（13－6、8－5）11　豊田自動織機（愛知）

▼準決勝

トヨタ自動車（愛知）　25（13－6、12－7）13　セントラル自動車（神奈川）
八光自動車（大阪）　19（8－10、11－5）15　高知クラブ（高知）

▼敗者戦・1回戦

新日本石油根岸（神奈川）　21（12－5、9－4）9　新日鐵名古屋（愛知）
ブラザー工業（愛知）　28（12－8、16－7）15　日本耐酸壜（岐阜）
自衛隊久里浜（神奈川）　33（18－4、15－1）5　周南市役所（山口）
マツダ（広島）　25（12－7、13－9）16　日本ゼオン（山口）

▼敗者戦・2回戦

ブラザー工業（愛知）　21（9－12、12－5）17　新日本石油根岸（神奈川）
自衛隊久里浜（神奈川）　31（16－7、15－7）14　マツダ（広島）

▼3位決定戦

高知クラブ（高知）　30（11－9、19－9）18　セントラル自動車（神奈川）

▼決勝

八光自動車（大阪）　25（13－8、12－9）17　トヨタ自動車（愛知）

▼敗者戦・決勝

自衛隊久里浜（神奈川）　22（7－7、15－5）12　ブラザー工業（愛知）

スコアールーム② 平成17年度・第29回全国高校選抜大会

期　日：平成18年3月22日（水）～27日（月）
会　場：東京都体育館、駒沢屋内球技場、駒沢体育館、立教大学体育館

【男子】

▼1回戦

北　陸（福井）　30（12－14、18－11）25　県立湯沢（秋田）
興　南（沖縄）　37（20－8、17－17）25　県立富岡（群馬）
瓊　浦（長崎）　26（12－11、14－10）21　県立松山工業（愛媛）
府立洛北（京都）　29（14－10、15－8）18　熊本市立千原台（熊本）
浦和学院（埼玉）　33（17－12、16－12）24　県立四日市工業（三重）
明　星（東京）　30（10－10、20－8）18　長崎日本大学（長崎）
駿台甲府（山梨）　30（13－9、17－13）22　県立東根工業（山形）
愛　知（愛知）　32（14－16、18－9）25　上　宮（大阪）

▼2回戦

北　陸（福井）　27（13－10、14－12）22　大分国際情報（大分）
東海大菅生（東京）　28（14－6、14－12）18　県立斑鳩・片桐・法隆寺国際（奈良）
県立東岡山工業（岡山）　26（13－9、13－14）23　北海道帯広三条（北海道）
興　南（沖縄）　26（13－11、13－10）21　岡崎城西（愛知）
瓊　浦（長崎）　23（11－11、12－9）20　県立下松（山口県）
湘南工科大附属（神奈川）　40（17－15、23－19）34　此花学園（大阪）
県立盛岡南（岩手）　33（16－6、17－16）22　県立四日市四郷（三重）
県立藤代紫水（茨城）　37（19－9、18－7）16　府立洛北（京都）
浦和学院（埼玉）　35（16－14、19－12）26　県立不来方（岩手）
県立那覇西（沖縄）　23（13－10、10－12）22　県立岩国工業（山口）
法政大学第二（神奈川）　28（13－13、15－14）27　県立氷見（富山）
育　英（兵庫）　38（19－13、19－15）28　明　星（東京）
駿台甲府（山梨）　35（18－10、17－11）21　北海道札幌月寒（北海道）
県立鹿児島工業（鹿児島）　24（11－12、13－6）18　県立香川中央（香川）
市　川（千葉）　37（20－6、17－11）17　県立小松工業（石川）
愛　知（愛知）　29（16－12、13－9）21　県立小林工業（宮崎）

▼3回戦

北　陸（福井）　37（19－8、18－13）21　東海大菅生（東京）
興　南（沖縄）　41（20－10、21－11）21　県立東岡山工業（岡山）
湘南工科大附属（神奈川）　29（16－15、13－12）27　瓊　浦（長崎）
県立藤代紫水（茨城）　30（16－15、14－13）28　県立盛岡南（岩手）
県立那覇西（沖縄）　29（13－10、16－17）27　浦和学院（埼玉）
法政大学第二（神奈川）　34（17－9、17－15）24　育　英（兵庫）
駿台甲府（山梨）　31（19－9、12－14）23　県立鹿児島工業（鹿児島）
愛　知（愛知）　31（20－12、11－15）27　市　川（千葉）

▼準々決勝

興　南（沖縄）　30（16－13、14－15）28　北　陸（福井）

県立藤代紫水(茨城) 29 (16－13、13－14) 27 湘南工科大学附属(神奈川)

法政大学第二(神奈川) 33 (15－18、18－11) 29 県立那覇西(沖縄)

愛　知(愛知) 23 (12－13、11－9) 22 駿台甲府(山梨)

▼準決勝

県立藤代紫水(茨城) 34 (16－15、18－17) 32 興　南(沖縄)

法政大学第二(神奈川) 30 (17－11、13－14) 25 愛　知(愛知)

▼決勝

県立藤代紫水(茨城) 29 (12－13、17－9) 22 法政大学第二(神奈川)

▼順位

優　勝　県立藤代紫水高校(関東・茨城県)　＊初優勝

準優勝　法政大学第二高校(関東・神奈川県)

第3位　興南高校(九州・沖縄県)

第3位　愛知高校(東海・愛知県)

▼優秀選手

最優秀選手賞　小室　大地(藤代紫水　3)

優秀選手賞　加藤　秀和(藤代紫水　13)

優秀選手賞　信太　弘樹(藤代紫水　14)

優秀選手賞　仁平　昌利(法政二　8)

優秀選手賞　藤田　悠也(法政二　9)

優秀選手賞　玉城　聖也(興南　1)

優秀選手賞　砂川　慶成(興南　7)

優秀選手賞　川口　祐樹(愛知　5)

有望選手　今元　勇輝(那覇西　10)

【女子】

▼1回戦

宮崎学園(宮崎) 23 (10－7、13－8) 15 浦和実業学園(埼玉県)

宣　真(大阪) 29 (13－7、16－12) 19 県立愛知商業(愛知)

県立松橋(熊本) 25 (11－9、14－8) 17 県立香川中央(香川)

夙川学院(兵庫) 25 (12－8、13－11) 19 聖和学園(宮城)

暁　(三重) 35 (16－6、19－9) 15 県立向原(広島)

熊本国府(熊本) 23 (14－11、9－11) 22 文化女子大学附属杉並(東京)

県立水海道第二(茨城) 29 (15－11、14－13) 24 初芝橋本(和歌山)

四天王寺(大阪) 31 (19－10、12－17) 27 高　水(山口)

▼2回戦

府立洛北(京都) 27 (16－4、11－9) 13 宮崎学園(宮崎)

小松市立(石川) 32 (12－9、20－9) 18 佼成学園女子(東京)

県立横浜南陵(神奈川) 44 (25－2、19－3) 5 北海道紋別北(北海道)

宣　真(大阪) 31 (15－2、16－8) 10 県立野辺地(青森)

県立華陵(山口) 25 (16－12、9－9) 21 県立松橋(熊本)

県立飛騨高山(岐阜) 21 (8－9、13－11) 20 白梅学園(東京)

県立陽明(沖縄) 32 (19－6、13－15) 21 仁愛女子(福井)

夙川学院(兵庫) 34 (15－8、19－12) 20 県立栃木商業(栃木)

昭和学院(千葉) 27 (13－10、14－7) 17 暁　(三重)

県立那覇西(沖縄) 37 (14－13、16－17) 34 神戸星城(兵庫)

(3－2延長4－2)

県立高松商業(香川) 21 (12－8、9－7) 15 県立不来方(岩手)

高岡向陵(富山) 36 (16－10、20－12) 22 熊本国府(熊本)

県立水海道第二(茨城) 27 (12－7、15－8) 15 北海道札幌月寒(北海道)

桜花学園(愛知) 28 (14－7、14－8) 15 佐賀女子短大付属佐賀(佐賀)

県立川和(神奈川) 31 (17－11、14－13) 24 県立光南(福島)

四天王寺(大阪) 32 (13－12、14－15) 31 県立大分鶴崎(大分)

(2－2延長3－2)

▼3回戦

府立洛北(京都) 27 (14－7、13－15) 22 小松市立(石川)

宣　真(大阪) 27 (16－4、11－11) 15 県立横浜南陵(神奈川)

県立飛騨高山(岐阜) 25 (14－9、11－11) 20 県立華陵(山口県)

夙川学院(兵庫) 32 (16－13、16－8) 21 県立陽明(沖縄)

昭和学院(千葉) 26 (16－6、10－5) 11 県立那覇西(沖縄)

高岡向陵(富山) 37 (17－11、20－7) 18 県立高松商業(香川)

桜花学園(愛知) 37 (20－13、17－14) 27 県立水海道第二(茨城)

四天王寺(大阪) 31 (15－9、16－6) 15 県立川和(神奈川)

▼準々決勝

府立洛北(京都) 27 (16－9、11－5) 14 宣　真(大阪)

夙川学院(兵庫) 24 (10－7、14－9) 16 県立飛騨高山(岐阜)

高岡向陵(富山) 26 (12－12、14－13) 25 昭和学院(千葉)

四天王寺(大阪) 21 (11－7、10－8) 15 桜花学園(愛知)

▼準決勝

府立洛北(京都) 29 (21－6、8－11) 17 夙川学院(兵庫)

高岡向陵(富山) 29 (17－12、12－12) 24 四天王寺(大阪)

▼決勝

高岡向陵(富山) 31 (17－9、14－15) 24 府立洛北(京都)

▼順位

優　勝　高岡向陵高校(北信越・富山県)　＊初優勝

準優勝　府立洛北高校(近畿・京都府)

第3位　夙川学院高校(近畿・兵庫県)

第3位　四天王寺高校(近畿・大阪府)

▼優秀選手

最優秀選手賞　作内　杏那(高岡向陵　3)

優秀選手賞　石田　光(高岡向陵　1)

優秀選手賞　竹内美沙紀(高岡向陵　5)

優秀選手賞　後藤千渡世(洛北　5)

優秀選手賞　山上　麻美(洛北　10)

優秀選手賞　林　志帆(夙川学院　3)

優秀選手賞　沢井　理絵(四天王寺　17)

優秀選手賞　澤田　智美(昭和学院　15)

有望選手　増田　寛那(大分鶴崎　11)

協会だより

平成17年度 第2回評議員会

日　時　平成18年2月4日（土）
場　所　明治神宮会館第一研修室
出席者　評議員36名、渡邊会長、理事9名、監事3名、オブザーバー2名、事務局3名

開会に先立ち、AHF専務理事Dr. Ahmed Abu Al Lail氏と第60回晴れの国おかやま国体開催地の岡山県協会副会長後山評議員及び津山市代表からお礼の挨拶が述べられた。

審議事項

1．平成18年度事業計画案について

平成18年度事業計画について一括して概略が説明され、最重要事項である、悲願のオリンピック出場に向けて総力を挙げてゆく所存であり全国のハンドボール関係者の協力が依頼された。

2．平成18年度事業予算案について

平成18年度事業予算は、一般会計当期収入合計が255,543,120円、一般会計当期支出合計が、281,402,200円となる。

報告事項

1．平成17年度第二次補正予算

平成17年度第二次補正予算は、一般会計当期収入合計が210,873,050円、一般会計当期支出合計が200,925,020円となる。

2．平成18年度国内・国際大会日程について

平成18年度国内・国際大会日程について、変更箇所（ヒロシマ国際大会）について説明された。

3．平成18年度会議日程について

平成18年度会議日程について説明が行われた。

4．平成18年度登録について

登録料は、一般L、リージョナル、大学種別は値上げ、高専・高校生は新規に500円、ビーチハンドボールとマスターズの個人登録料が300円に値上げした。役員登録料の内10,000円を10万人会グランド会員会費に充当する。国体（一時）登録は選抜チームの場合のみであったが、国体参加チーム把握などから平成18年度より単独チームにも提出を求めることにした。

5．平成17年度主要国際大会結果・予定について

主要国際大会結果と男子アジア選手権及び日本リーグプレーオフ予定について説明があった。

6．10万人会について

10万人会、今後の入会促進がお願いされた。

＊Dr. Ahmed Abu Al Lail氏からAHFへの質問を受けると申し出があった。これに対し、狩野評議員より、日本の優秀なレフェリーをアジア選手権などの国際大会に、より多く招聘して貰いたいと希望した。中村評議員は、アジアの代表がオリンピックや世界選手権で通用するようになるにはどの様に強化すれば良いかと質問した。

徳永顧問から、ごあいさつを戴いた。

8．「スポーツ界が変わる」

JOC常務理事でもある市原副会長が、同ゴールドプラン委員長として各地で説明している「スポーツ界が変わる」について、詳細に説明があった。

9．その他

1）マーケティング担当より、3点についてお願いがあった。
・新柄ネクタイが4月頃出来上がるので、購入をお願いしたい。
・地方で新聞などに掲載された情報があれば、協会へ連絡して貰いたい。
・ハンドボール経験者の有名人の情報収集に協力して貰いたい。

2）小学生ハンドボールについて
小学生や同指導者向けに小冊子発行を予定しており、大崎企業スポーツ研究財団の助成金を受けているので、数部ずつ都道府県協会に配布する。

3）国体抽選方法について
国体抽選のシードについて、現在競技運営部で検討中。

平成17年度 第3回理事会

日　時　平成18年2月18日（土）
場　所　日本青年館5F 502号室
出席者　渡邊会長他理事16名、監事3名、参事17名、事務局2名

審議事項

1．平成17年度第三次補正予算案について

特定預金積立に北京オリンピック積立5,000,000円を補正した。補正後当期収入合計275,344,324円、当期支出合計207,645,020円、次期繰越収支差額67,699,304円。

2．平成18年度事業計画（案）について

平成18年度事業計画の概要が説明された。また来年度開催の北京オリンピックのアジア予選を豊田市で準備を進めていると述べられた。ハンドボール競技の広報活動として、ホームページや機関誌といったシステム作りの必要性が述べられた。

3．平成18年度事業予算（案）について

収入合計324,637,424円、支出合計281,402,200円、次期繰越収支差額43,235,224円。

4．2006年度JOC専任コーチ及びジュニア強化コーチ等について

JOC専任コーチ、JOCジュニア強化コーチ、ユースエリート、海外研修者を申請する。

5．国民体育大会組合せ抽選特にシードについて

国民体育大会組合せ抽選のシード数については、大分国体から出場チーム数が変更される事から大分国体の時に見直しを検討する。

6．その他

審判の若手育成の観点から、公認審判員規程第2条「申請の資格は満18歳以上とする」を「申請の資格は満16歳以上とする」と申請資格年齢を引下げるよう規程改正の提案があった。

報告事項

1．強化について

外国籍選手登録について強化の観点から日本リーグにおいては、1チーム／試合2名エントリーにし、コートには1名出場可とする。これは外国籍選手を排除するわけではなく、日本人選手に出場機会を与えることである。平成19年度から実施予定。

2．ナショナルトレーニングセンターについて

北京五輪直前にナショナルトレーニングセンターが竣工される。センターにはハンドボール専用コートもある。

3．平成18年度国内・国際大会・ブロック大会日程について（大会要項）

平成18年度国内・国際大会・ブロック大会日程について説明がなされた。

4．国際大会スケジュールについて

国際大会スケジュールについて説明がなされた。

5．平成18年度登録について

プライバシー・ポリシーを追加した。現行行なわれている「役員登録料のうち10,000円を10万人会会費とし、自動的にグランド会員とする」という表記を追加した。競技者登録料の改訂を明記した。国体（一時）登録について、平成18年から単独チームおよび開催県チームについても期限までに登録を義務づけた。登録証については顔写真入りクラブニッポンカードを発行する予定であったが、費用の関係で写真なしカードとなるので現行カードと併用していく。

6．平成18年度会議日程について

前回までと変更はない。

7．北京オリンピック出場応援キャンペーン

について

全日本総合、JOC カップで活動を実施した。今後プレーオフ、全国中学生選手権、全国高等学校選抜大会等でも活動していく。各連盟の大会等においても是非協力願いたい。

8．コーチレフェリーシンポジウム他について

平成 17 年度コーチレフェリーシンポジウムを 3 月 17 日～ 18 日と開催する。また、国体監督の公認資格必須が迫っており、取得数の少ない県においては、ぜひ増やすよう願いたい。

9．大崎企業スポーツ事業研究助成財団補助事業報告について

普及活動の一環として市町での大会を増やしていく。技術面だけではなく、チーム育成やマナーについて盛り込んだ指導資料が 2 月末に完成を予定し、各県に配布する予定。将来的には有料で販売する。

10. 審判部合同会議報告

全国審判長会議を 4 月に開催したい。平成 18 年度の各全国大会に、15 ペアを「指名レフェリー候補」とし、そのメンバーを中心に「指名レフェリー」を入れたい。また女子のジャパンオープンは女子レフェリーで行なう等、積極的に女子レフェリーを使っていきたい。平成 18 年度の A 級審査でクーパー走について「12 分間走りつづける」方式を採用する。若手育成の観点からその他の議題で可決承認されたとおり審判資格を 18 歳から 16 歳に引下げる。また若手（小中学生）育成の為、責任者を設け指導していく。登録案として仮登録「若葉マーク」。4 月までに文章を作成し、説明する予定。

11. 機関誌編集委員会会議報告

北村参事逝去に伴い、2 月 15 日機関誌編集委員会を開催し、新委員長をまとめ役として推進していくこととした。

12. 第 30 回 JHL プレーオフについて

プレーオフ成功に向け協力を願いたい。

13. 新柄ネクタイ作成について

新しいネクタイのデザインについて説明がなされた。販売価格は 4,500 円を予定。

14. 協会マークについて

マーケティング委員会にて現在ロゴを検討中。ロンドン五輪までひろめたい。

15. 大会結果・予定（世界女子選手権、男子アジア選手権、春中）

今後第 1 回春の全国中学生大会等が開催される。大会成功に向け協力願いたい。

16. がんばれ 10 万人会について

10 万人まであと約 5,000 人。目標を 10 万人から更に引き上げるといった意見もあるがまずは 10 万人をクリアしたい。目標達成に向け協力願いたい。

17.「スポーツ界が変わる」

18. その他

1）スポーツ安全指導ガイドブック Vol.1、2 を配布した。

2）ホームページを利用し、「女性指導者対象：コーチングに関する調査」を実施中。

3）競技内（試合後）ドーピング検査を実施している。今後競技外（抜き打ち）検査も実施されるとの情報がある。

平成17年度 事務取扱責任者会議

日　時　平成 18 年 2 月 19 日（日）
場　所　日本青年館 501
出席者　加盟団体 42 名、日本協会 4 名、事務局 2 名

議　題

1．平成 18 年度事業計画・事業予算について

平成 18 年度の事業計画について事業予算とともに概略が説明された。

2．平成 18 年度国際・国内・ブロック大会日程について

ブロック大会についてまだ提出されてないブロックは早急の提出がお願いされた。

3．平成 18 年度会議日程について

平成 18 年度の会議日程について報告された。

4．大会結果・大会予定について

12 月の第 17 回世界女子選手権の結果と今開催中の第 12 回男子アジア選手権の結果が報告された。また、3 月に第 1 回目の開催となる春の全国中学生選手権大会について富山県協会より、組合せの発表と大会協力願いがなされた。

5．ナショナルトレーニングセンターについて

ナショナルトレーニングセンターついて進捗状況が報告説明された。

6．指導・普及事業について

小学生チームの育成状況が説明され、大崎企業スポーツ事業研究助成財団の助成事業により小学生チーム創設の資料となる「クリーンハンドボール」発行が報告された。

また、平成 18 年度の公認ハンドボール指導者養成講習会開催県の調査が行われ、秋田国体から義務づけられる公認指導者資格少数者県が数字の上では確保されることが確認された。また、J 級指導員養成講習会の開催促進も要請された。

7．2006 世界女性スポーツ会議について

「2006 世界女性スポーツ会議くまもと」について、協会女性委員会の活動状況（アンケート回答願い中）が説明され、各県所属の女性指導者への参加がお願いされた。

8．平成 18 年度登録について

平成 18 年度は、個人情報保護法に伴い登録用紙に個人情報の扱いについて記したこと、一部種別で登録料が改定されること、国体（一時）登録用紙の提出を、単独チームも提出するようにしたことが説明された。登録番号の発番方法、登録カードの発行方法について質問・提案がされたが、システム上の問題や費用的な面から現状の方法で行うことが確認された。また、平成 18 年度より導入予定の「クラブニッポンカード」については、まだ不確定要素が多いが、早ければ 8 月下旬頃には発行できる見通しで、費用的なことから同カードには写真を入れられないため、現在の登録証と併用することが説明された。

9．がんばれハンドボール 10 万人会について

現状と平成 18 年度以降の 10 万人会の会員対応について説明された。特に都道府県協会によるファミリー会員、グループ会員の入会促進がお願いされた。また、10 万人会加盟者数に応じた都道府県協会への還元金は、都道府県協会ファミリー会員グループ会員導入に伴い平成 17 年度で終了することが報告された。

10. 北京オリンピック出場応援キャンペーンについて

今後の全国主要大会で「北京オリンピック出場応援キャンペーン」として募金箱を設置することが報告され、協力が依頼された。

11. 平成 17 年日本協会表彰者推薦について

日本協会表彰について、規程を良く読み推薦者を期日までに提出することがお願いされた。

12. 各都道府県協会・連盟便り機関誌記事募集のお願い

各都道府県協会や連盟からの機関誌記事を募集しているので投稿が依頼された。

機関誌編集長として精力的に活動されていた北村善夫参事が、平成 18 年 2 月 11 日に自宅火事の火傷により逝去されたことが報告された。

13. 平成 18 年度加盟団体調査票提出について

加盟団体調査について、平成 18 年度に役員改選が行われる都道府県協会は、決定次第速やかに日本協会事務局に提出することが依頼された。

14. 日本リーグプレーオフについて

3 月 18、19 日開催の日本リーグプレーオフの観戦が依頼された。

15.「スポーツ界が変わる」

市原副会長が JOC 役員として書かれた「スポーツ界が変わる」について、スポーツ界の現状と今後が書かれており是非一読をと依頼された。

16. その他

日本協会グッズの消費税について、4 月 1 日より変更されることが説明され、理解と協力が依頼された。また、平成 18 年度の日本協会登録料改訂のお願い文を作成したので、各チームへの配布が依頼された。

がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」3月入会・継続会員

【北海道】松　喜美夫、小島収治　【青森】鎌田孫秀　【岩手】中舘　豊　【福島】今野雅益　【茨城】稲吉　繁、田中汀子、田中　将、小川雄也　【群馬】伊崎克巳　【埼玉】齋藤和也、坂井弘元、高田　誠　【千葉】坂本静男、外山朝子、勝俣裕二、堀　圭悟、伊藤将太、石橋　茂、石橋美保　【東京】松本隆平、奥井正浩、荘林康次、西村興八、石井達也
【神奈川】中丸英一、杉山義祥、植村　繁、五島孝彦、渡辺亜由美　【山梨】千野恒夫　【富山】光安美津夫　【愛知】間瀬和義、角　紘昭、小山哲央、小山俶江、蒲生晴明、西口貴子、西村亮治　【三重】加藤　公【京都】藤本　昇　【大阪】幸田良一、寺内啓之、古庄哲則、四方洋子、松林義政、小森園多恵子　【兵庫】丸茂登茂子、丸茂康子、山原一晃、田中幸江
【奈良】佐々木英明　【岡山】厚沢フサ子、厚沢嘉身　【広島】門田勝正、入本和男、清田憲男　【高知】有光正憲、佐賀厚幸
【鹿児島】野口智春

【5・6月の行事予定】

【会議】………………………………………………………
5月13日(土)　常務理事会(東京体育館)
6月10日(土)　第1回評議員会(東京体育館)
6月17日(土)　常務理事会(大崎電気工業㈱)
6月17日(土)　第1回理事会(大崎電気工業㈱)

【大会】………………………………………………………
5月24日(水)〜28日(日)
西日本学生選手権大会(岡山県：岡山市、総社市)

北京オリンピック出場 応援キャンペーン募金

春中大会：12,106円
高校選抜・日本リーグプレーオフ：6,639円

※次号は6・7月合併号で7月1日発行です。

HAND BALL CONTENTS May.

(登録チームの購読料は登録料に含む)

asics

JAPAN、名品の系譜。

機能だけではない、風格のようなものがなければならぬ。
先端のテクノロジーでさらにパワーアップした機能を備えて
新しくなったスカイハンドJAPANシリーズ。
グリップ力に優れた国産ラバー採用のJAPANラバーソールと、
しなやかで通気性のあるエクセーヌを使ったカラーアッパーに
ソール前足部のベンチレーションホール等々。
インドアを制するミドルカットとローカットが揃った。

足入れ感を高めてクラシカルな名品復刻モデル。

スカイハンド® JAPAN-MT
NEW THH514 ¥16,800(本体¥16,000)
● カラー：5093 ネイビーブルー×シルバー
● サイズ：23.0～29.0cm
● 2月上旬新発売



名品スカイハンドSPのフォルムを受け継いだローカットモデル。

スカイハンド® JAPAN-S
NEW THH515 ¥15,750(本体¥15,000)
● カラー：2300 レッド×パールホワイト
5093 ネイビーブルー×シルバー
● サイズ：23.0～29.0cm
● 2月上旬新発売





株式会社アシックス

アシックスシューズのストライプデザインはアシックスの商標であり、世界の多くの国で登録された商標です。表示価格は消費税込みのメーカー希望小売価格です。
( )内は消費税抜きの本体価格です。http://www.asics.co.jp 商品についてのお問い合わせは「アシックスお客様相談室」までどうぞ。03-3624-1814、06-6385-1155

(財)日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第四七〇号

昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可

平成十八年四月二十六日印刷 平成十八年五月一日発行

東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話 代表 〇三ー三四八一ー二三六一
振替 〇〇一二〇ー七ー一〇二九三

編集兼発行人 大西武三

定価 年間三三〇〇円